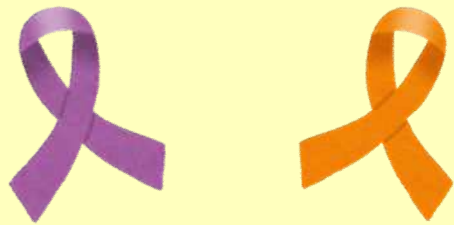
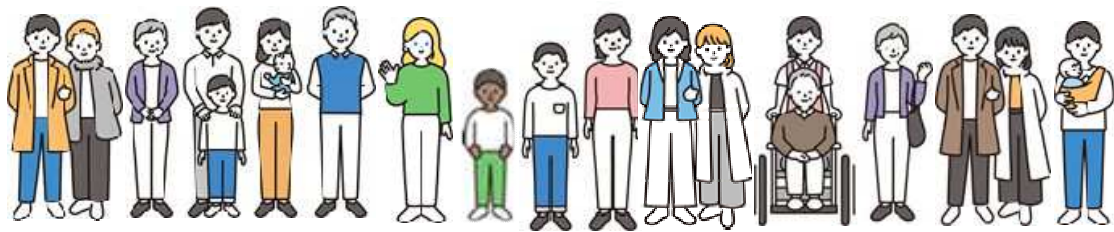


令和7年度

あさか女と男^{ひと}セミナー^{ひと}報告書



STOP DV! STOP 児童虐待!
パープル・オレンジリボン共同開催セミナー

「加害者心理と
アンガーマネジメント」



「家族」のかたちについて
考えてみませんか?

はじめに

本市では、「男女の輪が素敵な朝霞をつくる～男女平等社会をめざして～」をめざす姿とし、男女平等に係る活動を支援する総合的な拠点施設である、それいゆづらざ(朝霞市女性センター)を中心に、さまざまな施策を進めています。

「あさか女と男セミナー」は、男女平等に関する情報を提供するとともに、その学びを通じて、受講者一人ひとりの男女平等意識を高め、性別にかかわらず、その持てる力を発揮し、社会や地域で活躍できる人材育成を目的に、公募による「あさか女と男セミナー企画・運営協力員」と協働して毎年度開催しています。

今年度は、全3回実施のうち1回をパープル・オレンジリボン共同開催セミナーとして、こども家庭センターと共同開催し、2回をセミナー企画・運営協力員との協働で開催しました。セミナー企画・運営協力員との会議で話し合い、従来の家族観にとらわれない、お互いに尊重し合える家族、社会を目指すきっかけとなるようにとの思いを込め、テーマを『いろいろな家族のかたち～「家族」のかたちについて考えてみませんか？～』と決定しました。

『いろいろな家族のかたち～「家族」のかたちについて考えてみませんか？～』のセミナーでは、直接「会話すること」に重心を置き、受講者がテーマに沿ってお互いの話を聞いたり、意見を交換したりする参加型講座の「トークミーティング」と、テーマに沿って二人の講師が対話形式で意見を交わし合う、ライブ感のある講座の「トークセッション」をいずれも対面式で開催しました。

「他課との共同開催」、「トークセッション」、「トークミーティング」のいずれも初めての試みではありましたが、受講者が、自分自身への気づきや他者を理解するためのヒントを得られた講座となったのではないかと思います。

この報告書が、より多くの市民の方々の目に留まり、誰もが性別に関わらず活躍できる男女平等社会の実現に向け、より一層理解を深めていただく一助となれば幸いです。

令和8年3月

それいゆづらざ(朝霞市女性センター)

あさか女と男セミナー企画・運営協力員

— 目 次 —

こども家庭センターとの共催事業

『STOP DV! STOP 児童虐待！パープル・オレンジリボン共同開催セミナー』

「DV・児童虐待などの加害してしまう心理的要因について」 1

講師／ビヨンドザボーダー株式会社 代表取締役 あんどう わたる 安藤 亘 氏

「育児に活かすアンガーマネジメント講座」

講師／一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 まつもと みつのが 松本 光宣 氏

トークミーティング「家族とジェンダーについて」 3

ファシリテーター／あさか女と男セミナー企画・運営協力員

こばやし なおと 小林 直人 氏 みゆき リチャードソン 幸 氏

トークセッション「多様な家族 ～生き方いろいろ 家族もいろいろ～」 5

講師／東洋大学健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科 教授

うちやま ゆうこ 内山 有子 氏

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科 准教授

たかはし さわこ 高橋 佐和子 氏

受講者アンケート集計 7

あさか女と男セミナー企画・運営協力員を終えて 11

ひと ひと
*この報告書は、「あさか女と男セミナー企画・運営協力員」と協働で作成しています。

第1部 こども家庭センターとの共催事業

『STOP DV! STOP 児童虐待！ パープル・オレンジリボン共同開催セミナー』

第1部「DV・児童虐待などの加害してしまう心理的要因について」

第2部「育児に活かすアンガーマネジメント講座」

開催日時:令和7年11月8日(土) 午後1時～3時30分

参加人数:54人

第1部講師:ビヨンドザボーダー株式会社代表取締役 あんど うわたる 安藤 亘 氏

第2部講師:一般社団法人 日本アンガーマネジメント協会 まつもと みつのが 松本 光宣 氏

プロフィール

安藤亘氏:早稲田大学人間科学部人間基礎科学科卒業後、株式会社リクルート入社。その後「社会福祉士」「精神保健福祉士」の資格を取得し、現在はメンタルヘルスに関するさまざまな講演会や研修会の企画・運営、および講師をつとめている。

松本光宣氏:建設会社役員を経て、アメリカ及び日本の大学院で学ぶ。現在は、キリスト教プロテスタント教会牧師。毎週日曜日は、聖書から人生のさまざまな問題とその解決について語っている。特に自分が葛藤し続けてきた「怒り」の問題は、大きな使信の一つである。

○内容

第1部では、加害者は特別な存在ではなく、孤立や自尊心の低下等の要因により、誰でもなりうること、事例分析を通じ、加害者心理の理解が暴力の予兆発見や適切な被害者支援に重要であることなどを説明。また、孤立を防ぎ精神的自立を促すための「自立度チェック」や「よろこびリスト」作成等のワークを行い、早期の気づきとコミュニケーションの重要性を共有した。

第2部では、怒りの根底には自身の「こうあるべき」が関係していることを学び、怒りが沸いた時の対処法として、6秒待つことで怒りをコントロールすることが出来るという実践的な内容とした。

○受講者の声

・時間が短いと感じました。もう少しお話を聞きたいと思いました。とても良いテーマ企画だと思います。ゆえに短い時間ではもったいないと思いました。詳しくお話をもっと聞きたいと思いました。

- ・とても深い講義でした。もっと学ばせて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・来年出産予定なので、子育てをする上で知っておくべき内容だと思った。
- ・仕事に生かすことができたらと参加させて頂きました。しっかり学ばせて頂き、自分自身に必要な学びであったと思います。
- ・安藤先生の話は、気付きが多く、勉強になりました。松本先生の話は、とてもわかりやすく明るい方なので、元気ができました。ログをつけてみようと思いました。

○講義の様子



第2部 トークミーティング「家族とジェンダーについて」

開催日時:令和8年1月8日(木) 午後6時～7時30分

参加人数:9人

ファシリテーター: あさか女と男^{ひと}セミナー企画・運営協力員 小林^{こばやし}直人^{なおと}氏

あさか女と男^{ひと}セミナー企画・運営協力員 リチャードソン^{みゆき}幸氏

○内容

あさか女と男セミナー企画・運営協力員に、参加者との意見交換の場を回すファシリテーターとして、講座の中心的な役割を担ってもらい、お互いの話を聞いたり、意見を交換したりする、少人数の座談会を行った。「否定しない」「今日聞いたことは他で話さない」等のグラウンドルールを設け、トークテーマをいくつか用意し、リラックスした雰囲気です話し合った。

○感想

・今回「家族とジェンダー」というテーマでトークミーティングを行い、いろいろな考えに触れることができました。その中で、「女性らしさ」「男性らしさ」といった考えについては、大部分で意識できていますが、「女性の役割」「男性の役割」については、仕事や家事といった日々の生活の中で、無意識に作り、作られてしまっているということを感じ、改めて個々だけでなく社会で「意識すること」の大切さを考えさせられました。

また、今回の大きなテーマである「家族」について、「家族ってなに？」という内容で話してもらったところ、「味方」(人)、「安心・安らげる場所」(場所・空間)、「義父母への感謝と孫への希望」(過去と未来/時間軸)というように、「家族」への感じ方もいろいろな形があり、あっていいのだと感じることができました。

今回初めての試みで、私自身ファシリテーターとして、もっと皆さまの声を聴くことができたのではないかと、反省することも多い中、無事終了できたことに感謝いたします。

・トークミーティングは、あさか女と男セミナーでは初の試みだったようですが、少人数で対話をする形式というのは、とてもよい試みだったと思いました。ジェンダーの話を中心に話題がいろいろとみられ、「聴く」ことが中心になりがちなセミナーと打って変わって、自分が参加し「話す」機会があるのはとても新鮮でした。自分が話すことによって考えがまとまったり、他の人の話したことから話題が広がったり、今後もこういった少人数で、男女共同参画社会について考えられるイベントをしていってもよさそうだなと感じました。

○受講者の声

- ・いろいろと考える良いきっかけになりました。またこのようなセミナーをお願いします。
- ・他の人の考えを聴き、それを「そういう考えもあるんだな」と受けとめる。多様性を認め合う社会に生きるのに、必要なことだと思いました。
- ・トークで参加するタイプは緊張するかと思いましたが、みなさん話しやすく、話すことで、同感したり、違いを認識することができて貴重な体験となりました。

○会場の様子



第3部 トークセッション「多様な家族 ～生き方いろいろ 家族もいろいろ～」

開催日時:令和8年2月5日(木) 午後1時30分～3時

参加人数: 18人

講師:東洋大学健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科 教授 うちやま ゆうこ 内山 有子 氏
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科 准教授 たかはし さわこ 高橋 佐和子 氏

プロフィール

内山有子氏 :北海道教育大学で養護教諭免許取得後、東京大学教育学部、国立保健医療科学院の研究生、アメリカ疾病予防管理センター(CDC)客員研究員などを経て、さいたま市の高校にて養護教諭として勤務。アメリカではCDC内の事故防止センターで、子どもの事故防止に関する研究に従事していた。2016年より東洋大学で養護教諭、保育士、幼稚園教諭の養成に携わっている。

高橋佐和子氏 :新潟大学特別別科修了後、養護教諭として7年勤務し、浜松医科大学大学院修士課程に進む。その後再び養護教諭として7年の勤務を経て、聖隷クリストファー大学に就職。在職中に国際医療福祉大学博士課程修了(看護学博士)。2018年4月より神奈川県立保健福祉大学に異動し、現在に至る。

研究分野は学校保健。健康教育(おもしろ健康教育研究所)や養護教諭の職能開発(スキルラダー研究会)に関する研究に取り組む傍ら、性教育を中心に年間15回程度小・中・高等学校等での講演を行なっている。

○内容

「多様な家族」というテーマに沿って、二人の講師が対話形式で意見を交わし合う、ライブ感のある「トークセッション」を行った。統計や事例を交え、単身世帯や再婚、同性パートナー、養子縁組など、家族の形が多様化している現状から、固定観念にとらわれない、個々の生き方や多様な絆を尊重する重要性を共有した。

○感想

・トークセッションは、講師の方を二人招いて「家族のかたち」についてのお話を聞きました。家族と聞いて思い浮かべるステレオタイプの家族像。その家族像とは違う家族を築いている人。また、世間の思う、当たり前には当てはまらない「家族のかたち」を選択する人の経験するもの。いろいろと興味深いお話が聞けました。思った以上に「家族のかたち」は、男女共同参画と結びついているんだなと再確認できるトークセッションでした。また、講師の方が二人いたのが、掛け合いや話の広がりが出て、ライブ感ありでとてもよかったです。

・「多様な家族」という答えの出ないテーマのもと、講師のお二人が自身の経験や体験も含めてセッションを行っていただいたので、いろいろと考えながらも楽しい時間となりました。その中で私は、「心の家族」「制度の家族」という考えが印象的で、心の家族の中にある「幸せ」「絆」といったものを、必ずしも求める必要はないのではないか。求めないことで、制度の家族の中に心の家族に属することのできない、また、属することを求めている人の権利や考えも尊重することができると感じました。「多様な家族」とは、制度や慣習等にとらわれない、さまざまな家族の形があってよいという考えで、とても大切ですが、「家族」ととらわれすぎずに、個人の権利を尊重することも含め、改めていろいろな角度から考えることの必要性を「いろんな家族のかたち」から学ぶことができました。

○受講者の声

・昭和に育った私の考える「多様な家族」と実際の多様さに差があると感じました。自分の中にあるバイアスを少しずつでも減らしていけたらと思いました。それが未来のジェンダー平等につながっていくと思います。

・以前から意識を変えるのはとても難しいことだと感じていたが、セミナーを受け、理解し否定しないということが大事という認識が変わった。気持ちが楽になった。

○講義の様子



アンケート集計結果 (R7. 11. 8分)

セミナー参加者：47名 保育児：3名

アンケート回答：40名/47名 (回収率85.1%)

1 年代を教えてください。

- ① ~20歳代：1名 ②30歳代：5名 ③40歳代：12名
④50歳代：13名 ⑤60歳以上：9名

2 現在、子育て中か、過去に子育てしていた経験はありますか？

- ①現在、子育て中：19名 ②過去に子育ての経験がある：12名
③子育ての経験はない：9名 ④その他：0名 無回答：0名

	~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
① 現在、子育て中	0	4	11	4	0	19
② 過去に子育ての経験がある	1	0	0	2	9	12
③ 子育ての経験はない	0	1	1	7	0	9
④ その他	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0
計	1	5	12	13	9	40

3 本日のセミナーを何でお知りになりましたか？(重複回答あり)

- ① 広報：10名
② 市のホームページ：0名
③ セミナーのポスター：10名
④ SNS、メール配信サービス：6名
⑤ その他：17名

(内訳)

職場から案内：6名、知人から紹介：2名、Tetoru：1名、
それいゆプラザより：1名、民生委員の定例会：1名、妻からの紹介：1名
あさかみらいこども食堂：1名、保健師からの紹介：1名、
里親会から紹介：1名、

- ⑥無回答：0名

4 本日のセミナーへの参加理由・きっかけを教えてください。

(※ここでは一部を抜粋して掲載しています。)

- ・子育てをしている中で、イライラすることが多くなった。また子供も怒りっぽいので、接し方のヒントが得られれば、と思い参加しました。
- ・感情のコントロール術を知るため。
- ・仕事に生かすことが出来たらと参加させて頂きました。しっかり学ばせて頂き、自身に必要な学びであったと思います。
- ・自分を振り返り、今後に生かしたいと思って。

5 本日のセミナーの満足度を選んで、数字に「○」をつけてください。

(不満足 1 ←————→ 10 満足)

第1部

4…1名、5…3名、6…2名、7…6名、8…8名、9…3名、10…13名、無回答4名
(無回答を除き平均8.2)

第2部

4…1名、5…1名、6…1名、7…3名、8…9名、9…8名、10…14名、無回答3名
(無回答を除き平均8.6) ※重複回答1名あり、高い数値を採用した。

6 関係者は所属を教えてください。

こども家庭センター：5名、保育園：3名、女性センター：3名、市役所：2名

民生委員・子育て支援団体(ボランティアグループ)：1名、里親：1名、学校：1名

7 本セミナーに関して、ご意見ご要望がございましたらご記入ください。

(※たくさんのご意見等をいただき、ありがとうございました。ここでは一部を抜粋して掲載しています。)

- ・“すべき”という価値観や信念が自分自身強く持っているから、怒りやすいのかもと気付くことが出来ました。6秒待てるか今は自信がありませんが、「待つ」という点で今後取り組んでいきたいと思います。
- ・アンガーマネジメントの話は、目からウロコでした。怒りの根本は“べき”。それは今後、怒りに対してコントロールできそうです。
- ・2部制なので仕方ないと思いますが、もう少し時間があってもよいかなと思いました。お話はよくわかり、楽しかったです。

ひと ひと

令和7年度あさか女と男セミナー

ジェンダー&ダイバーシティ講座「いろんな家族のかたち～「家族」のかたちについて考えてみませんか?～」

参加者アンケート集計結果 回答件数: 26 名

問1. あなたの性別・年代を教えてください。※回答は任意です。

性別	女性	男性	選択しない	無回答	合計
トーク ミーティング	4	4	1	0	9
トーク セッション	6	6	1	4	17
合計	10	10	2	4	26 (人)

年代	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	合計
トーク ミーティング	0	2	1	4	1	1	0	9
トーク セッション	1	3	3	4	3	1	2	17
合計	1	5	4	8	4	2	2	26 (人)

問2. 今回のセミナーはどちらで知りましたか?(複数回答可)

	広報	ホームページ	市公式X	Facebook	市公式LINE	チラシ・ポスター	紹介	その他	無回答	合計
トーク ミーティング	3	2	1	0	1	5	4	2	0	18
トーク セッション	5	2	0	0	0	6	4	6	0	23
合計	8	4	1	0	1	11	8	8	0	41 (人)

問3. 今回のセミナーの参加理由は?(複数回答可)

- ①講師・テーマ・内容に興味があったから
- ②以前にも参加したことがあったから
- ③知り合いなどに誘われたから
- ④会場が行きやすい場所だったから
- ⑤その他

	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
トーク ミーティング	6	1	2	1	2	0	12
トーク セッション	10	6	1	1	5	0	23
合計	16	7	3	2	7	0	35 (人)

問4. セミナーの内容などについて、近いものを選んでください。

満足度

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
トーク ミーティング	6	2	0	0	0	1	9
トーク セッション	13	3	0	0	0	1	17
合計	19	5	0	0	0	2	26 (人)

わかりやすさ

	わかりやすかった	ややわかりやすかった	どちらともいえない	ややわかりづらかった	わかりづらかった	無回答	合計
トークミーティング	7	1	0	0	0	1	9
トークセッション	15	1	0	0	0	1	17
合計	22	2	0	0	0	2	26 (人)

セミナー時間

	長い	やや長い	ちょうど良い	やや短い	短い	無回答	合計
トークミーティング	0	0	7	1	0	1	9
トークセッション	0	1	13	1	0	2	17
合計	0	1	20	2	0	3	26 (人)

問5. 今後のセミナーで取り上げて欲しい内容、テーマ等は何ですか？(複数回答可)

- ①男女共同参画(全般)
- ②SDGs(目標5:ジェンダー平等の実現)
- ③女性の就業支援
- ④男性の家事・育児・介護への参画
- ⑤LGBTQなどの性の多様性
- ⑥デートDV
- ⑦男女共同参画の視点から考える防災
- ⑧ワーク・ライフ・バランス
- ⑨女性の政治参画
- ⑩パートナーとのコミュニケーションのコツ
- ⑪DV(配偶者等からの暴力)
- ⑫性暴力・性犯罪
- ⑬ハラスメント
- ⑭その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
トークミーティング	3	1	2	5	5	2	2		
トークセッション	2	3	3	4	5	3	3		
合計	5	4	5	9	10	5	5		
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	無回答	合計
トークミーティング	3	3	5	2	2	6	1	0	42
トークセッション	5	3	7	1	5	5	1	0	50
合計	8	6	12	3	7	11	2	0	92 (人)

問6. 今年度は、セミナーを新たな形式で開催しました。開催方法(トークミーティング・トークセッション)についてご感想をお聞かせください。

※たくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございました。ここでは一部を抜粋して掲載しています。

<1/8開催 トークミーティング>

- ・新たな試みでよかったと思います。いろいろな考えを聞いてよかったです。ただ、時間に関しては参加しやすい時間を再考すると参加者が増えると思いました。
- ・新しい試みでとてもよいと思いました。少人数なのもよかったです。
- ・いろんな人の意見や考え方を聞くことができ、多くの気づきを得ることができた。

<2/5開催 トークセッション>

- ・会話形式でセミナーが進行していくので、話が入ってきやすかった。
- ・講師の先生が2人だと多角的なお話が聞けるのでよかったと思います。
- ・講師それぞれの個性が発揮された話が聞いて、楽しく参加することができた。二人の息がとても合っていると思った。

問7. セミナーに対するご意見・ご感想をお書きください。(自由記入)

※たくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございました。ここでは一部を抜粋して掲載しています。

<1/8開催 トークミーティング>

- ・いろいろと考える良いきっかけになりました。またこのようなセミナーをお願いします。
- ・初めての夜の時間帯での開催だったので、どんな感じかと思いましたが、少人数での良さがあった内容でした。トークで参加するタイプは緊張するかと思いましたが、みなさん話やすく、話すことで、同感したり、違いを認識することができて貴重な体験となりました。

<2/5開催 トークセッション>

- ・さまざまな家族のかたちに触れていただけて、とても学びがありました。
- ・世代や育った家庭、環境、教育によって、感じたり考え方がそれぞれなのは当たり前で、多様性を認めたくない人がいても、仕方ないかなと思っています。それぞれが心地良い形が「家族」のかたちになっているといいなと思います。

～あさか女と男セミナー企画・運営協力員を終えて～



©むさしのフロントあさか

今回のセミナーについて、二つの新しい企画を行えたことは、とても意味のある事だったのではないのでしょうか。これは事前の会議で、全員が積極的に意見を交換することができた結果だと感じております。

トークミーティング、トークセッションという形でいろいろな声を聴くことで、今までとは違った体験をすることができました。今後、このような企画や考えをどのように社会で広げていくか、参加者をどのように増やしていくかは、課題となるところだと思います。

私自身、今回の参加だけで終わらず、今後も「ジェンダー&ダイバーシティ」「人権」というものを継続して考えていきたいと思っています。改めて考え、意識することの大切さを感じることができ、この企画に参加できたことに感謝いたします。

あさか女と男セミナー企画・運営協力員 小林 直人

去年初めて女と男セミナーの協力員をやらせていただき、今年度二度目のお手伝いでした。嬉しいことに、去年のセミナーを見て今年協力員に応募したという方と一緒にきて、協力した事柄から何かが広がっているのは嬉しいことだなと感じました。

今年度は、セミナーの回数や内容でいろいろと新しい試みがあり、そういった新しい試みが、あさか女と男セミナーでできたのは、とてもよかったと思いました。また時間が許せばお手伝いしていきたいです。よろしくをお願いします。

あさか女と男セミナー企画・運営協力員 リチャードソン 幸

令和 7 年度

^{ひと} ^{ひと}
あさか女と男セミナー報告書

発行年月 令和 8(2026)年 3 月

発 行 朝霞市

編 集  朝霞市女性センター
それいゆぷらざ

あさか女と男セミナー企画・運営協力員

〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1-1-1

(令和8年10月末まで一時移転中)

電 話 048-463-2697

F A X 048-463-0524

E-mail soreiyu@city.asaka.lg.jp